

臨床心理学専攻

再生紙を使用しています。

対象課程		科目名		単位	科目コード	開講時期	授業科目区分		
修士課程		臨床心理実習 Practice in Clinical Settings		2	8927-01	通年	関係科目		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メールID			オフィスアワー		
キーワード		授業科目の学習目標							
1	精神科医療の理解	学外実習先と学内実習施設「臨床心理センター」で実習を行う。							
2	臨床心理士の専門業務	学外実習では、医療・教育・福祉などのそれぞれの実習先について理解し、患者さんやクライアントの抱える問題や治療・援助方法について学ぶ。またそれぞれの場での臨床心理士の専門業務や役割について、他職種の専門性とも比較しながら理解を深める。							
3	様々な現場と他職種の理解	学内の臨床心理センターでは、心理療法場面への陪席や担当、心理検査の施行などを通して実習を行い、実際のクライアントとの関わりや心理療法の進め方について学ぶ。							
4	事例検討会への参加								
5	スーパービジョン								
授業の概要および学習上の助言									
<p>学外実習先は複数の場を設定するが、その年によって変更があるため、決定次第、その内容を受講生に説明する。</p> <p>原則として1か所につきそれぞれ10回の実習を行う。受講生は週1回、それぞれの実習先に出向き、スケジュールに沿って活動する。異なる施設での実習を経験することで、それぞれの施設の特徴や果たしている役割の違いなどを理解することが望まれる。</p> <p>臨床心理センターでの実習は、来談したクライアントの状態や同意の有無などによって実習の予定が決まる。面接へ同席する場合は、面接の邪魔にならないようにクライアントを観察するとともに、カウンセリングという場の設定の仕方、カウンセラーの役割や介入とその効果についても観察し、カウンセリングで起こっていることを体験的に理解するように努めること。</p>									
教科書および参考書									
津川律子、橘玲子 編著 2009 臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド 誠信書房 (ISBN978-4-414-40049-6 C3011)									
履修に必要な予備知識や技能、および一般的注意									
精神医学や精神科疾患（統合失調症、躁うつ病、アルコール依存症、不安障害など）、人間の発達について基礎知識を身につけておくこと。また個人および集団を対象とした心理療法に関する一般的な知識を確認しておくこと。特に、臨床心理基礎実習で学んだカウンセリングの技法やカウンセラーとしての基本的態度について、復習しておくこと。									
No.	学生が達成すべき行動目標								
①	学内外を問わず、毎回の実習について簡潔に概要を述べ、記録することができる。								
②	学外施設での実習を通して、各実習先の特徴とそこでの臨床心理士の役割を他職種の専門性と比較しながら説明できる。								
③	実習を通して自分が学び経験したことを任意の視点で考察し、報告書にまとめることができる。								
④	カウンセリングにおけるセラピストの役割や姿勢、クライアントとのやりとりについて観察し、適切に描写できる。								
⑤									
⑥									
達成度評価方法（総合評価割合）									
	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポータルフォリオ	その他	合計	
配点	0	30	45	15	0	0	10	100	

授 業 計 画

<学外実習>

4月は実習に関するオリエンテーションおよび基本的知識を確認する期間とする。

4月下旬もしくは5月より順次、2名ないし1名ずつ実習先に出向き、活動する。

実習は週に1日、決められた曜日と時間に行う。

実習後は毎回の実習報告書を提出し、実習の全日程（10回）終了後に最終レポートを提出すること。

<学内実習（臨床心理センター）>

来談したクライアントの状況によって不定期に面接への陪席や心理検査の実施などの実習が開始される。したがって、個人によってその回数や内容に違いがあることがある。実習開始時期は事例担当者および実習担当教員が相談のうえで決定し、本人に連絡する。

学外実習と同じく、毎回、実習報告書を提出すること。実習の前後に事例担当教員が指導を行う場合があるので、これも含めて報告書に記載すること。

担当もしくは陪席した事例について、臨床心理センターの事例検討会で報告することも実習に含まれる。

また、この事例検討会への出席は実習に準ずるものとして出席を原則とし、出席状況は成績にも反映させる。

<成績評価>

実習への積極的参加ができてきているかどうか、実習時の態度や礼儀がその場にふさわしいものか、実習の報告が適切になされているか、学外・学内を問わず、実習での経験をもとに任意の視点で考察レポートとしてまとめられるか、を中心に成績を評価する。

達成レベルの目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<p>実習で学ぶべき課題について十分に理解するだけでなく、自らの目標を設定して能動的に実習に取り組むことができる。</p> <p>たとえば「精神科リハビリテーションの実際」、「他職種との役割分担と連携」、「各種心理療法の意義と特徴」、「社会適応や社会復帰への取り組みと現実」など様々なテーマを実習を通して考え、各局面で臨床心理士が果たすべき役割とは何か、問題点や今後の展望などについて自分の考えを述べるができる。</p> <p>また臨床心理センターでは、毎回の指導（スーパーヴィジョン）を受けながらクライアントを担当し、カウンセリングを進めていくことができる。</p>	<p>教科書や講義で学んだ知識について、実際に臨床心理士が働く場に接することでより深く理解し、説明できる。それぞれの実習先について特徴や役割を説明し、その中で臨床心理士がどのように役に立てるのか、自分の考えを述べるができる。</p> <p>臨床心理センターの実習において、クライアントの特徴や問題について観察し、自分なりの見立てを適切な表現で説明することができる。</p>